

国内拠点 & 国内部 ニュース

2018年3月号

PICK UP! JICA北陸



SDGsの推進を目指してJICA北陸のスタッフと金沢駅前のつづみ門をバックに撮影。2列目右から2番目に仁田支部長。

雪国の厳しい冬に耐えて躍動する新幹線の姿は、北陸地方の中小企業にも重なります。頭打ちの国内市場から抜け出て海外進出を目指す企業、自社の国際化を期して外国人従業員の採用を拡大する企業、世界共通の達成目標となったSDGs（持続可能な開発目標）に全社を挙げて真剣に取り組む企業…。

そんな北陸の企業10社が昨年11月、JICA北陸が企画した民間連携モロッコ調査団に参加しました。欧州、アフリカ、中東、北米の十字路に位置し、安定した政治・社会を基盤に経済成長を続けるモロッコ。製造業、農業、コンサルタント業、学校法人など様々な業種の参加企業の皆さんは、現場での見聞を通じて、進出先としてのモロッコの魅力を口々に語っていました。JICA北陸は、今後もこうしたプログラムを通じて、北陸の中小企業の熱い想いを世界の途上国に届ける架け橋になりたいと思っています。

JICA北陸支部長 仁田知樹

JICA北陸 民間連携事業—モロッコ調査団の派遣を終えて—



モロッコでは外国企業の投資が順調に増え続け、市場性・潜在力の高さから今後さらに魅力的な進出先として注目されることが予想されます。ビジネスチャンスや海外事業人材育成のヒントを探るため、JICA北陸では昨年、モロッコ調査団を派遣しました。北陸の中小企業8社を含む11名が参加し、事前プログラムを経て11月12日～19日まで現地を視察しました。調査団参加者は、自動車産業をはじめとする外資企業の進出状況やモロッコの地理的優位性、「イスラム教」のイメージと異なる安定した政治などについて知り、良好な投資環境を実感した様子でした。12月15日には「海外ビジネス展開とグローバル人材育成」をテーマに、調査団帰国報告を兼ねた2部構成のセミナーを実施。北陸の企業関係者を中心に約30名の方々が参加されました。

この記事の詳細は→<https://www.jica.go.jp/hokuriku/topics/2017/20180124.html>

★北陸のことをもっと知りたい方は<https://www.jica.go.jp/hokuriku/>

◆札幌 北海道科学大学で、国際協力について講演を行いました！



JICA北海道は、北海道科学大学で「地域活動と社会貢献」という講義を担当し、なぜ国際協力を「しなければならない」のか、青年海外協力隊の活動等話します。今年度は「持続可能な開発目標（SDGs）」をテーマにしたオリジナル楽曲も演奏。「他国の人々が『自分達の国を背負って学ぶ』という覚悟を持って勉強をしに来ているという話が印象に残った」「国際協力は身近なところでも行われているのだと考え直す機会となった」という声もありました。今後もJICA北海道は、みなさんと一緒に考え、学ぶ場を作っていきたいと考えています。

この記事の詳細は

<https://www.jica.go.jp/sapporo/topics/2017/ku57pq00000i9ljq.html>

★札幌のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/sapporo/>

◆帯広 とかち製菓の和菓子8品が、ハラル認証（マレーシアJAKIM認証）を取得！



株式会社とかち製菓は2014年よりタイ・マレーシアを対象国として実施されたJICA草の根技術協力事業（地域経済活性化特別枠）「北海道フード特区・フードバレーとかち 海外展開支援を兼ねた東南アジア食産業人材育成」に参加し、マレーシアでハラル大福のOEM生産を行ってきました。「日本に来て食べられるものが少ない」というムスリム観光客の声に応え、十勝の工場で生産する5種の大福、白玉ぜんざい、2種のわらび餅の計8品でハラル認証（マレーシアJAKIM認証）取得。2月9日には同社で記者会見が行われました。

この記事の詳細は

<https://www.jica.go.jp/obihiro/topics/2017/ku57pq00000idq5a.html>

★帯広のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/obihiro/>

◆東北 【宮城県】河北新報フィリピン派遣報告



地方マスメディア派遣プログラムで、河北新報の山口達也記者が1週間の日程でフィリピンを訪れました。マニラ首都圏で訪問した認定NPO法人アイキャンでは、路上生活する子供たちを支援する活動やパヤタスのゴミ山を訪問し、大きな衝撃を受け、2013年の台風ハイヤンで大きな被害を受けたレイテ島タナワン市では、テクソン市長から被災状況や行政の対応について説明を受けました。またJOCV山田隊員が活動する小学校では山田隊員の授業と教師海外研修に参加した先生たちの授業を見学しました。各記事はリンク先からご覧いただけます。

この記事の詳細は

<https://www.jica.go.jp/tohoku/topics/2017/2018013101.html>

★東北のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/tohoku/>

◆二本松 麗澤大学・立命館大学・獨協大学・お茶の水女子大学が体験入所で来所



4つの大学から教官や職員、学生がJICA二本松青年海外協力隊訓練所に宿泊研修で来所され、特別プログラムでJICA事業について理解を深め、2017年度4次隊訓練生とも交流しました。麗澤大学には国際交流・国際協力専攻のコースがあり、PBL（現地で実際にプロジェクトを作り実施しながらPDCAを学ぶ）型の学習でカンボジアやミクロネシアでプロジェクトを立ち上げて運営をしています。立命館大学からは職員自身の研修、ICAとの連携促進及び同学の教育カリキュラムの参考にするを目的に、京都市衣笠キャンパスの職員が参加されました。

この記事の詳細は

<https://www.jica.go.jp/nihonmatsu/topics/2017/ku57pq00000igv47.html>

★二本松のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/nihonmatsu/>

◆筑波 パキスタン帰国研修員からの便り ～野菜播種機の普及を目指して～



パキスタンでは豆類、オクラ、ダイコン等、野菜の栽培が盛んですが、小規模農家は手作業で播種（種まき）をしています。人件費等の経済的負担も大きく、近年は労働者不足も課題の一つで、安価で小型の播種機が開発されることが求められています。研修に参加したパキスタンのスルタンさんは精度の高い播種、大幅な収量向上・品質向上という利点に着目。小規模農家の生産性や収入向上支援、将来的に野菜の海外輸出の可能性も視野に入れ、多目的人力播種機を試作し、帰国後もその挑戦は続いています。

この記事の詳細は

<https://www.jica.go.jp/tsukuba/topics/2017/ku57pq00000i9jd.html>

★筑波のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/tsukuba/>

◆駒ヶ根

長野県南牧村の農家の皆さんが、フィリピンの教え子たちに会ってきました！



フィリピンのルソン島北部ベンゲット州は標高が高いため涼しく、長野県のように高原野菜の産地です。南牧村で2年間農業指導を受けた若手フィリピン人農家の畑を訪れ、かつての教え子たちに「株間をもっと取るように」「植えつけ時期を10日ずらして計画栽培をすること」等具体的な指導をして旧交を温めていました。JICA駒ヶ根では、野菜の販売技術改善を目指した草の根技術協力事業「安全野菜生産販売技術改善プロジェクト」を実施中です。長野県の農業技術が遠いフィリピンの若手農業者の皆さんを助けています。

この記事の詳細は

<https://www.facebook.com/jicakomagane/posts/1605179242891905>

★駒ヶ根のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/komagane/>

◆中部

日本の総合的な廃棄物管理を学ぶ研修員 一名古屋市鳴海工場訪問ー



JICA中部が名古屋市の特設非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会に実施を委託し、1月12日から2月23日まで行われた課題別研修「総合的な廃棄物管理 (D)」コースには8か国13名が参加し、日量530トンが処理できる最新鋭のガス化溶融炉を持つ廃棄物焼処理施設、名古屋市鳴海工場を見学しました。見学用の通路では廃棄物特有のにおいもなく、研修員は「本当に廃棄物を扱っている施設か」と驚き、質疑応答では「廃棄物と一緒に石灰を入れているが何故か」「処理能力はどのように決定したのか」など多くの質問がありました。

この記事の詳細は

https://www.jica.go.jp/chubu/topics/2017/20180213_01.html

★中部のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/chubu/>

◆四国

2017年度 高知県自治体間連携強化セミナー海外調査団（パラグアイ）実施報告



JICA四国は、高知県からの移住者が都道府県別で最も多く、現在でも関係の深いパラグアイへ同国日系社会との連携強化及びJICA事業の活用について理解を深めることを目的に1月14日から22日まで調査団を派遣しました。元プロ野球選手で巨人や横浜で活躍した高知ファイティングドッグス監督の駒田徳広氏の、子どもたちを対象とした「少年野球教室」には計116名が参加。駒田監督は、ボールの握り方から丁寧に指導し、「基本を大切にすること」「プレーを通じて積極性を身につけてほしい」など熱いメッセージも合わせて伝えました。

この記事の詳細は

<https://www.jica.go.jp/shikoku/topics/2017/0302.html>

★四国のことをもっと知りたい方は→ <https://www.jica.go.jp/shikoku/>

◆沖縄

ブータン王国におけるきのこ栽培



ブータンでは、人工栽培により食用きのこのシイタケとヒラタケが生産されています。琉球大学は、ブータン国立きのこセンターの職員にシイタケ・ヒラタケの適切な栽培・管理技術を伝え、農家への普及の仕組み改善を目指し、草の根パートナー型「ブータンきのこ生産農家の生活向上プロジェクト」を行っています。種菌製造に必要な容器を検討し、衛生概念・無菌操作に対する技術を指導します。日本とは衛生的作業に関する認識の違いもあり、時間はかかりますが衛生的作業の知識を根気強く伝えていき、技術普及を図っていきます。

この記事の詳細は

<https://www.jica.go.jp/okinawa/topics/2017/ku57pq00000i722g.html>

★沖縄のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/okinawa/>

EVENT REPORT

◆東京

第5回自治体等水道事業関係者勉強会の開催



東京都とJICAは、水道分野の国際協力において、国内自治体等による水道協力の事例などを共有して各事業の改善に役立てることや、自治体による国際協力への参画活性化を目的として第5回自治体等水道事業関係者勉強会を共同で開催しました。初日は「官民連携による国際協力事業の推進」としての取り組みが共有されました。二日目には「技術協力の活用事例」として株式会社PUCからミャンマーにおける水道事業体とコンサルティング会社の共働によるプロジェクト実施の事例が紹介され、また午後には、東京都の三園浄水場を視察しました。

詳細は <https://www.jica.go.jp/tokyo/topics/2017/ku57pq00000i3owr.html>

東京のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/tokyo/>

◆ 関西 国際協力ひろば「スポーツでボランティア活動～世界の健康につながる～」



2月3日・4日に「ワン・ワールド・フェスティバル」がありました。今年の国際協力ひろばは、17あるSDGsのゴールの中でも、特に3番の「すべての人に健康と福祉を」を取り上げました。「健康」と「身体が動かせること」をリンクさせ、スポーツ分野のJICAボランティアの経験者2名を講師として招き、新立みずきさんには派遣されたウガンダの遊び「ラッツ&キャット（ネズミとネコ）」を教えていただき、とても盛り上がりました。

詳細はhttps://www.jica.go.jp/kansai/event/report/2017/180207_01.html

★関西のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/kansai/>

◆ 中国 2017年度 第2回国際教育研修会



1月27日、ひろしま国際センターにて教員や学生、広く国際教育に関心のある方を対象にした研修会が行われました。JICA中国が行う教師海外研修に参加した先生方からの発表がありました。岡山県玉野市の井本亜希先生は、バス移動中、雨が降る中で花売りの少年に出会ったエピソードをもとに、開発途上国にとってどんな支援が有効か、中学生である自分自身に何ができるのか、を生徒に考えてもらう授業を実践しました。

詳細は https://www.jica.go.jp/chugoku/topics/2017/20180207_01.html

★中国のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/chugoku/>

◆ 九州 長崎の農業が海を渡る？ 海外展開の始め方セミナーin島原半島



11月22日、「海外展開セミナー in 長崎 『長崎の農業が海を渡る』～ 海外展開の始め方セミナーin島原～」が雲仙市で開催されました。「事例紹介」では、インドネシアでイチゴ栽培に関する案件化調査に採択された有限会社木之内農園（熊本県）の村上進社長より、インドネシアのイチゴ栽培の実態や案件化調査の進捗状況のほか、熊本地震についてに触れ、被災農業者の一人として、海外への挑戦を通じ、地元経済・地域活性化へ貢献したいとの思いも語られました。

詳細は<https://www.jica.go.jp/kyushu/topics/2017/ku57pq00000id9c9.html>

★九州のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/kyushu/>

EVENT INFORMATION

◆ 横浜 企画展示「激アツ！国際協力シゴト人」次はキミの出番だ！

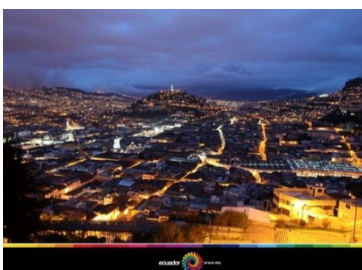


JICA横浜では7月29日（日）まで 国際協力の第一線で活躍する「激アツ！シゴト人」をフォーカスし、その道に入ったきっかけ、想い、キャリアパスなどを一挙紹介する企画展示を開催中。関連イベントとして4月4日（水）には申込み不要の「JICAボランティアなんでも相談会」を実施します。また、3月21日（祝・水）に認定NPO法人 国連WFP協会が主催する「プロが語る！国際協力のゲンバ」の申し込みはこちらへ→<http://jawfp-event032118.peatix.com>

詳細は<https://www.jica.go.jp/yokohama/event/2017/180210.html>

★横浜のことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/yokohama/>

◆ 地球ひろば 3月の月間特別展示「エクアドル共和国」



3月の月間国別展示は2018年に日本エクアドル外交樹立100周年を迎えたエクアドル共和国です。3月16日（金）から3月29日（木）まで「エクアドル：ひとつの国、4つの世界—ガラパゴス諸島、海岸線、アンデス、アマゾン—」の写真展を展示。3月28日（水）20時からエクアドル先住民族音楽グループ「Peguche Tiu（ペグーチェ・ティウ）」無料ライブコンサートがあります。またJ's Caféではエクアドル料理を週替わりでご用意しています。

詳細は<https://www.jica.go.jp/okinawa/enterprise/kaihatsu/festival/index.html>

★地球ひろばのことをもっと知りたい方は→<https://www.jica.go.jp/hiroba/>



お知らせ

中小企業海外展開支援事業

JICA 開発途上国課題発信セミナーに、全国から 177 社が参加！

2月19日(月)、2月20日(火)、中小企業海外展開支援事業等への応募を目指す企業向けに、開発途上国の課題・ニーズを分野別に解説する「JICA 開発途上国課題発信セミナー」を開催しました。JICA 本部、11 か所の国内機関で同時開催したこのセミナーには、海外展開を考える企業 177 社が全国から参加。二日間で、のべ 372 人がセミナーを聴講しました。セミナー終了後には、JICA 海外展開支援事業の応募にあたっての個別相談も受け付け、海外展開支援を適切に活用してもらうためのアドバイスや制度の説明などを行いました。

終了後のアンケートでは、参加者の半数以上が「本セミナーが有用であった」と回答し、好評でした。今後も、日本の中小企業の皆様の活力を海外で活かすための支援に、一層力を注いでまいります。

市民参加協力事業

平成 29 年度「第 44 回大山健康財団賞」*1 に、 特定非営利活動法人「TICO」吉田修代表理事の受賞が決定

JICA の「草の根技術協力事業」*2 等を通じた吉田修代表理事のザンビア国の保健医療分野における長年の協力実績及び日本国内における人材育成活動を踏まえて JICA が推薦、受賞へとつながりました。同氏は 1993 年に「徳島で国際協力を考える会」(現在は TICO に改称)を設立し、1995 年からザンビアの地域保健医療活動を開始しました。日本国内では、1999 年に徳島県で「さくら診療所」を開設して地域医療を実践しつつ、国際協力への関心を持つ医療関係者の育成にも尽力しています。現在は TICO 及びさくら診療所の人材ネットワークと資金により、ザンビア大学医学部附属教育病院においてザンビア人医師による心臓外科手術の実現に向けた技術指導を行っています。

こちらのニュースも是非ご覧ください。<https://www.jica.go.jp/zambia/office/information/event/20180307.html>